

6 スポーツボランティア

6-1 スポーツボランティアの実施率

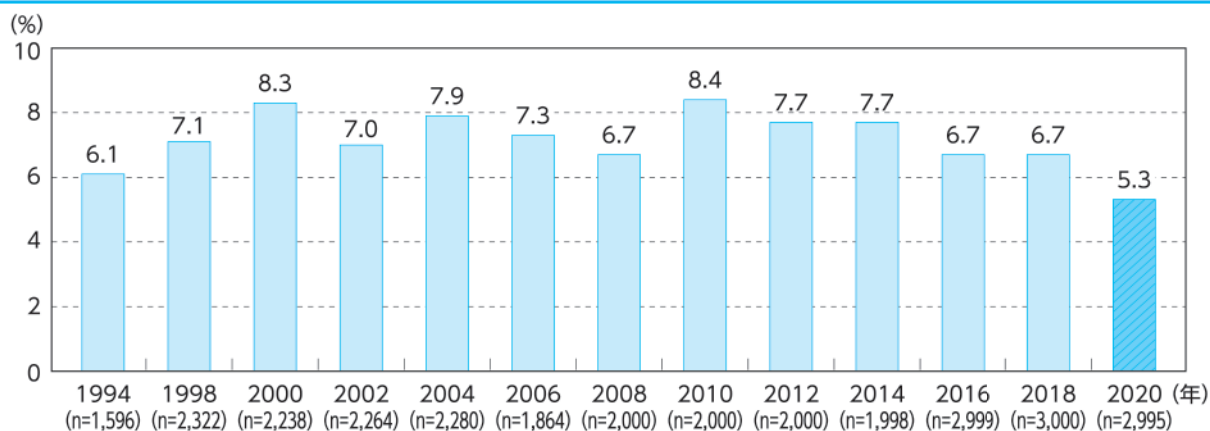
スポーツボランティアとは、報酬を目的としないで、自分の労力・技術・時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動と定義される。

図6-1に、過去1年間にスポーツボランティアを行った者の割合を示した。2020年調査におけるスポーツボランティア実施率は5.3%であった。2018年の6.7%からわずかに1.4ポイント減少したが、スポーツボランティア実施状況の調査を始めた1994年以降、最も低い実施率となった。新型コロナウイルス感染症流行によるスポーツボランティアの活動機会の減少が、スポーツボランティア実施率の減少をもたらしたと予想される。今回の結果から、過去1年間のスポーツボランティア人口は560万人と推計された。

スポーツボランティア実施率を性別にみると、図6-2に示すように男性は6.7%、女性は3.9%であり、男性の実施率が女性を2.8ポイント上回る。

図6-3には、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のスポーツボランティア実施率を示した。年代別にみると、18・19歳が8.3%と最も高く、成人は年代とともに20歳代4.3%、30歳代5.7%、40歳代6.4%と増加し、50歳以上になると減少に転じる。70歳以上のスポーツボランティア実施率は、最も低い4.0%であった。

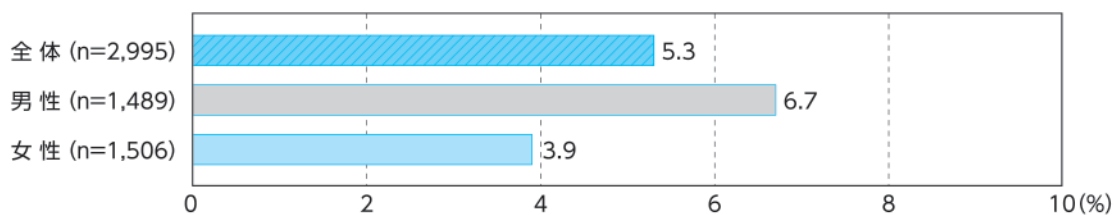
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」は11.2%と最も高く、「レベル3」5.6%、「レベル1」5.0%、「レベル2」3.3%と続く。過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった「レベル0」は1.1%と、運動・スポーツ実施者と比較してスポーツボランティア実施率が低い。



【図6-1】スポーツボランティア実施率の年次推移

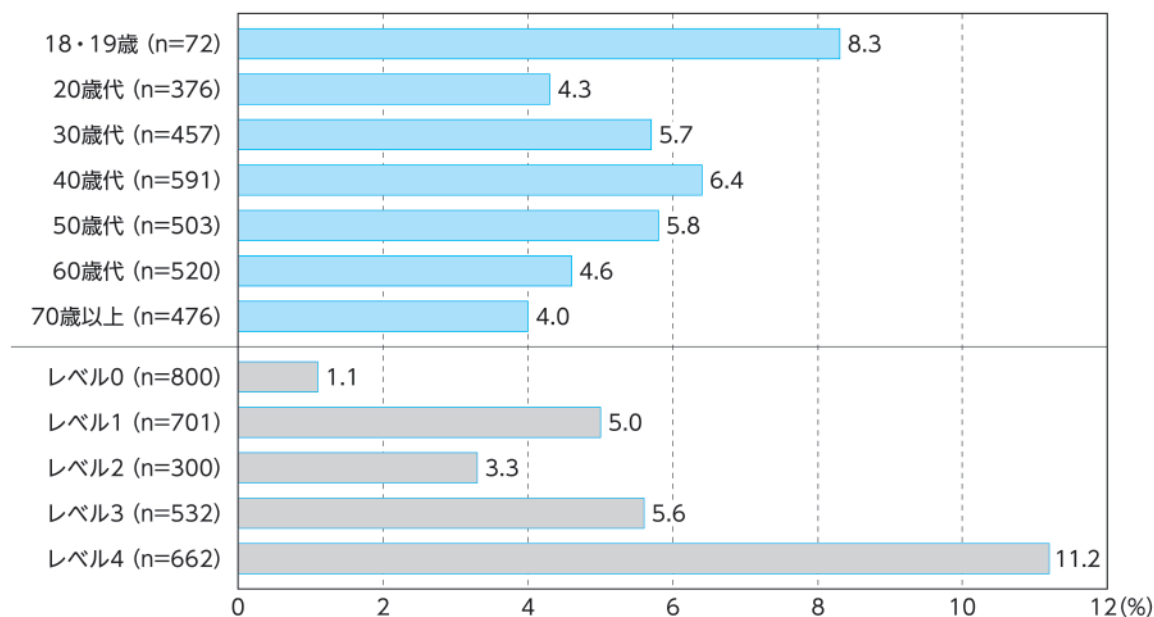
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020



【図6-2】スポーツボランティア実施率(全体・性別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020



【図6-3】スポーツボランティア実施率(年代別・レベル別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

6-2 スポーツボランティアの実施内容

表6-1には『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的なスポーツイベント』ごとの具体的なスポーツボランティアの実施内容を示した。

全体では『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」の実施率が39.9%で最も高く、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」37.3%、「スポーツの指導」29.1%が続く。年間の平均実施回数は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が47.6回と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営

や世話」が15.3回、「スポーツの審判」が9.5回であった。

性別にみると、『地域のスポーツイベント』の「大会・イベントの運営や世話」が男性42.0%、女性36.2%と最も高い。次いで男性は『日常的な活動』の「スポーツの指導」41.0%、「団体・クラブの運営や世話」39.0%の順であった。女性は『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」34.5%、『地域のスポーツイベント』の「スポーツの審判」12.1%となった。それぞれの実施内容について女性より男性の実施率が高い傾向があるが、なかでも男性は『日常的な活動』の「スポーツの指導」「スポーツの審判」の実施率が女性に比べて高い特徴がある。

【表6-1】スポーツボランティアの実施内容(全体・性別:複数回答)

スポーツボランティアの内容		全 体 (n=158)		男 性 (n=100)		女 性 (n=58)	
		実施率 (%)	実施回数(回/年)	実施率 (%)	実施回数(回/年)	実施率 (%)	実施回数(回/年)
日常的な活動	スポーツの指導	3位 29.1	47.6	2位 41.0	48.5	8.6	38.3
	スポーツの審判	20.9	9.5	30.0	9.9	5.2	6.0
	団体・クラブの運営や世話	2位 37.3	15.3	3位 39.0	13.3	2位 34.5	19.0
	スポーツ施設の管理の手伝い	8.2	3.8	10.0	4.1	5.2	2.7
地域のスポーツイベント	スポーツの審判	17.1	5.0	20.0	5.9	3位 12.1	2.7
	大会・イベントの運営や世話	1位 39.9	2.6	1位 42.0	2.9	1位 36.2	2.1
全国・国際的なスポーツイベント	スポーツの審判	3.2	2.6	4.0	2.0	1.7	5.0
	大会・イベントの運営や世話	6.3	5.2	6.0	4.2	6.9	6.8

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

6-3 スポーツボランティアの実施希望率

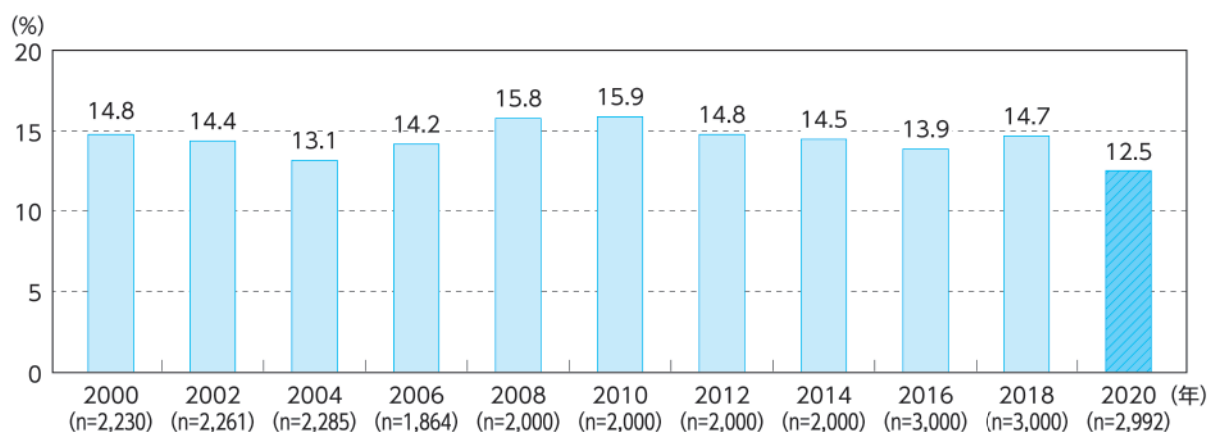
今後のスポーツボランティア実施希望を「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」「あまり行いたくない」「まったく行いたくない」「わからない」の5つの選択肢でたずねた。このうち「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」と回答した者を合わせてスポーツボランティア実施希望率を算出し、図6-4に年次推移を示した。2020年のスポーツボランティア実施希望率は12.5%であり、前回2018年の14.7%からわずかに2.2ポイント減少した。2000年から経年でみると、これまでスポーツボランティア実施希望率は13~16%の間を推移してきたが、2020年ははじめて13%を下回り2000年以降で最も低くなった。新型コロナウイルス感染症流行によるスポーツボランティアの活動環境の変化が、実施希望に対して影響した可能性がある。

スポーツボランティア実施希望率を性別にみると、図

6-5に示すように男性は13.4%、女性は11.5%であり、男性が女性よりも1.9ポイント高い。

図6-6には、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のスポーツボランティア実施希望率を示した。年代別にみると、18・19歳の27.8%が最も高く、他の年代を大きく上回る。続いて20歳代が14.9%、40歳代が13.9%であり、70歳以上の7.2%が最も低かった。スポーツボランティア実施率、スポーツボランティア実施希望率ともに、18・19歳が最も高く、70歳以上が最も低いという特徴がみられた。

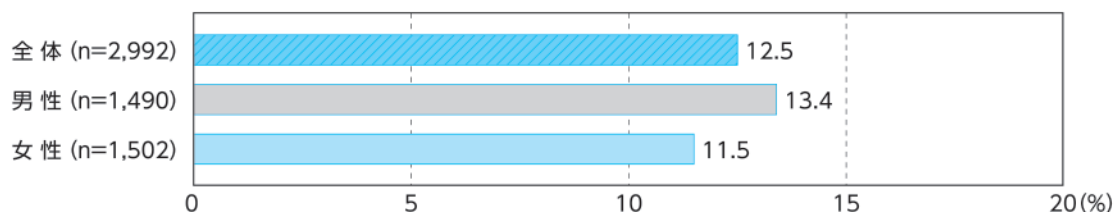
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」は22.2%であり、約5分の1がスポーツボランティアの実施を希望している。次いで「レベル3」の13.7%、「レベル1」の12.8%であった。過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった「レベル0」は4.4%と最も低い。



【図6-4】スポーツボランティア実施希望率の年次推移

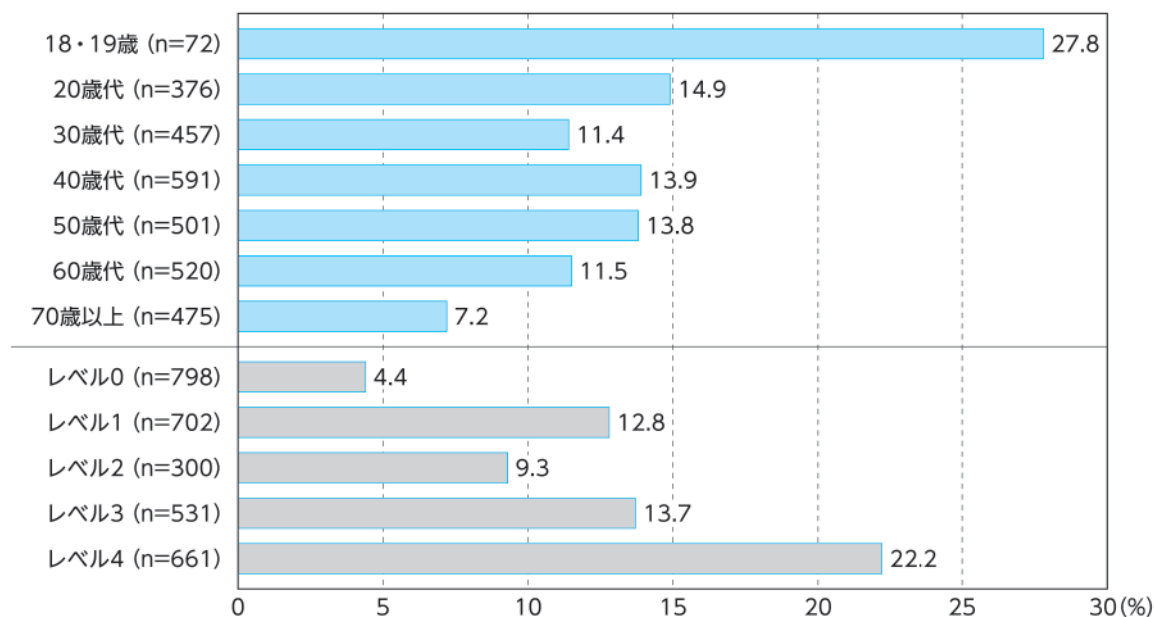
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020



【図6-5】スポーツボランティア実施希望率(全体・性別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020



【図6-6】スポーツボランティア実施希望率(年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020

6-4 スポーツボランティアの実施希望内容

今後、スポーツボランティアを「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」と回答した者が希望する具体的なスポーツボランティアの内容を表6-2に示した。全体では「地域のスポーツイベントの運営や世話」52.3%が最も高く、2位の「日常的な団体・クラブの運営や世話」26.3%と比較して26.0ポイントの差がある。3位には「全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話」24.7%が続く。

性別にみると、全体の結果と同様に「地域のスポーツイベントの運営や世話」が男性51.3%、女性53.5%と最も高い。次いで男性は「日常的なスポーツの指導」30.5%、「日常的な団体・クラブの運営や世話」23.9%となった。女性は「全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話」34.9%、「日常的な団体・クラブの運営や世話」29.1%と続き、女性は大規模イベントの運営や世話を希望している点に特徴がある。

【表6-2】今後希望するスポーツボランティアの内容(全体・性別：複数回答)

(%)

スポーツボランティアの内容	全体 (n=369)	男性 (n=197)	女性 (n=172)
地域のスポーツイベントの運営や世話	1位 52.3	1位 51.3	1位 53.5
日常的な団体・クラブの運営や世話	2位 26.3	3位 23.9	3位 29.1
全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話	3位 24.7	15.7	2位 34.9
日常的なスポーツの指導	20.6	2位 30.5	9.3
日常的なスポーツ施設の管理の手伝い	16.8	16.2	17.4
日常的なスポーツの審判	10.3	14.7	5.2
地域のスポーツイベントでの審判	8.9	14.2	2.9
スポーツ情報誌やホームページ作成の手伝い	4.3	3.0	5.8
全国・国際的なスポーツイベントでの審判	3.0	3.0	2.9

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2020